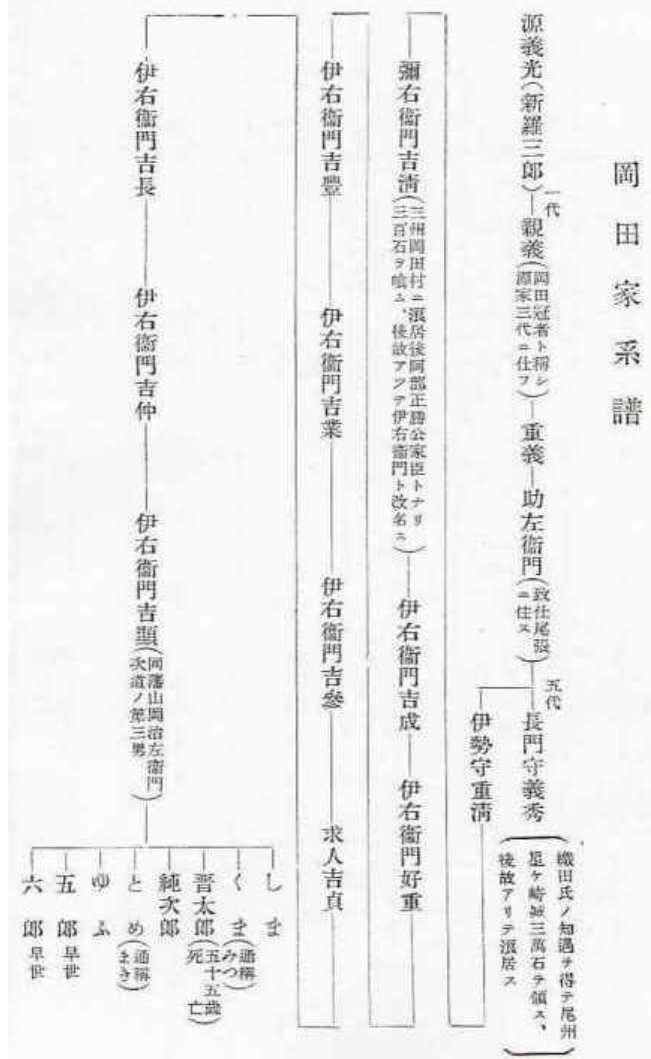


岡田吉顕

おかだ・よしあき

福山藩大参事、深津・沼隈・深安郡長、阿部家家令



経歴

生:天保13年(1842年)6月18日、東京本郷丸山町阿部家邸内生まれ

没:昭和3年(1928年)2月25日 東京西片町で病没、享年87歳、東京小石川蓮華寺に葬る

天保13年(1842年)6月18日	一	東京本郷丸山町阿部家邸内に生まれる。福山阿部家重臣山岡治左衛門次道の次男
安政2年(1855年)2月	12歳	父次道、一家を挙げて福山に移住する
安政4年(1857年)	15歳	福山藩岡田伊右衛門吉仲の養子となる

安政5年(1858年)12月	16歳	御供番として初めて出仕、12石二人扶持
安政5年(1858年)12月9日	16歳	養父吉仲の長女エイと結婚
安政6年(1859年)6月	17歳	一傳流剣術肝煎
安政7年(1860年)3月	17歳	江戸在番
文久元年(1861年)5月	18歳	福山在番
文久元年(1861年)12月	19歳	近習役
文久2年(1862年)2月	19歳	砲術肝煎役
文久2年(1862年)12月	20歳	加俸により50俵となる
文久3年(1863年)1月	20歳	依願免、砲術肝煎役。文学並びに御文法修行を命ぜられる
文久3年(1863年)5月	20歳	御使番
文久3年(1863年)11月	21歳	大目付
文久3年(1863年)12月	21歳	養父吉仲病死、家督四百石を嗣ぐ
元治元年(1864年)4月	21歳	京都在番
元治元年(1864年)5月	21歳	俗名を伊右衛門とする
元治元年(1864年)7月	22歳	蛤御門ノ変により急遽帰国し、御番頭、二番組支配
元治元年(1864年)10月	22歳	征長の命により、藩主正方公に随って広島に出陣
慶応2年(1866年)	23歳	解兵、福山に帰る
慶応2年(1866年)2月	23歳	長州再征となり、石州口に出陣
慶応3年(1867年)6月	25歳	益田において長兵と激戦、浜田城に退く
慶応3年(1867年)7月	25歳	諸兵とともに福山に帰人陣する
慶応3年(1867年)8月	25歳	福山藩御用人
慶応4年(1868年)1月9日	25歳	長兵が突如福山城を襲う。吉頭らが奔走し無事落着する
慶応4年(1868年)1月末	25歳	命により、大砲隊を率いて松山に出張、2月に帰国
慶応4年(1868年)4月	25歳	福山藩大隊司令官心得
慶応4年(1868年)9月	26歳	福山藩箱館出兵総督
慶応4年(1868年)10月2日	26歳	鞆を出発、蝦夷地に向う
明治2年(1869年)6月11日	27歳	蝦夷地を平定し福山に凱旋する
明治2年(1869年)8月	27歳	福山藩執政
明治2年(1869年)11月	27歳	版籍奉還、阿部正桓公の藩知事とともに、大参事となる
明治3年(1870年)11月	28歳	政府召集の集議院議員会議に参加、「藩治本論」を上程。
明治4年(1871年)	29歳	廃藩置県、福山県・深津県の残務整理し、小田県へ申し送る
明治8年(1875年)6月	33歳	七等判事となり、東京地方裁判所詰となる
明治9年(1876年)2月	33歳	正七位となる

明治9年(1876年)3月	33歳	栃木裁判所所長
明治9年(1876年)10月	34歳	栃木裁判所所長を免ぜられ、大審院詰となる
明治10年(1877年)6月	35歳	依願により大審院詰を免ぜられ、福山に戻る
明治11年(1878年)11月	35歳	広島県が設置され、深津・沼隈二郡の郡長となる
明治12年(1879年)	37歳	徴兵事務官
明治15年(1882年)	38歳	深津・沼隈・安那三郡の郡長
明治18年(1885年)	43歳	福山教育義会が設立され理事に就任
明治19年(1886年)	44歳	検疫委員
明治31年(1898年)	56歳	深津・安那両郡が合併し深安郡となりその郡長、さらに沼隈郡長となる
明治34年(1901年)6月	59歳	勲五等瑞宝章
明治39年(1906年)4月	63歳	雙光旭日章
明治40年(1907年)1月	64歳	深安郡長を依願免、
明治42年(1909年)1月	66歳	正桓公の懇望により阿部家家令となり、居を東京西片町に移す
大正11年(1922年)8月	80歳	阿部家家令を辞し、協議員を囑託される
昭和3年(1928年)2月25日	85歳	西片町で没、享年87歳

生い立ちと学業、業績

天保13年(1842年)東京丸山の阿部家邸内で生まれた。幼名を純次郎又は求馬、諱は次雄、字は創、通称は伊右衛門、号は北窓。安政4年(1857年)福山藩士岡田伊右衛門吉仲の養子となり俗名を求人、実名を吉頭と改めた。

父は福山藩の重臣山岡秋崖でその次男。安政2年(1855年)父の一家福山に帰住、ことに剣道並砲術の修練に励んだ。その技大いに上達し、また威風堂々たる体躯の持ち主となった。実兄の山岡謙介は、藩校誠之館で英学教師を勤め、後には阿部家家令を勤めた。

安政5年(1858年)藩に出仕、二人扶持12石を給せらる。安政5年(1858年)吉仲の長女エイと結婚、文久2年(1862年)養父病死、家禄400石を襲い、俗名を伊右衛門と改めた。

元治元年(1864年)征長の命を受け、藩主阿部正方に随って広島に出陣。慶応2年一旦福山に帰り、慶応2年(1866年)再征石州に向い、慶応3年(1867年)7月福山に帰陣、御用人を仰付けられた。

慶応4年(1868年)1月、突如長兵が福山城を襲ったが、吉頭らの奔走により無事落着した。慶応4年(1868年)1月末、命を受け、大砲隊を率いて松山に向い使命を果たして慶応4年(1868年)2月帰国、大隊司令官心得を仰せ付けられる。

慶応4年(1868年)9月には箱館出兵総督を命ぜられ蝦夷地に向う。福山藩は一番乗りの輝かしい武勲を建て、明治2年(1869年)平定、6月凱旋、8月執政に挙げられた。

明治2年(1869年)11月藩籍奉還となり、阿部正桓が福山藩知事となるや大参事に挙げられた。

明治3年(1870年)政府召集の集議員議員会議に参加、会期中に「藩治本論」と題するきわめて注目すべき意見書を政府に上程している。明治4年(1871年)廃藩置県のため小田県が置かれ大参事を免ぜられたが、引き続き止まって藩の財政整理を命ぜられ、短期間に困難なる整理を完了し、明治7年(1874年)解散となった。

箱館戦争以来知遇を受けていた山田顕義の好意により、時の司法卿であった氏の引き立てで明治8年(1875年)七等判事に任命され、まず東京裁判所詰、次に栃木裁判所長、さらに大審院判事となった。その後、明治10年(1877年)願い出て退官、福山に帰郷した。

明治11年(1878年)郡役所が新設されると、郷党の懇請により沼隈、深津二郡長に就任、明治15年(1882年)更に深安郡を加え三郡長となった。沼隈郡独立後は深安郡長として明治40年(1907年)退官まで30年間地方行政を担当し、教育・産業を始め地方の発展振興に多大の功績を遺した。その間の功により従五位勲五等に叙せられた。

また誠之館にとって忘れ得ぬこととしては、一県一中学制(「中学校令」)によって、福山中学校が廃校の危機に瀕した時、氏が中心となって明治18年「福山教育義会」が設立され、備南地方全住民の力を結集して、見事にその存続に成功したことである。

退官後、阿部家の懇請により家令となったため、明治42年(1909年)福山を引き上げて上京、西片町に移り住んだ。こうして生涯を阿部家3代に献身的に奉仕された。大正11年(1922年)には高齢のため家令を退き、阿部家協議員となる。

昭和3年(1928年)天寿を全うして、87才で他界せられた。武道の外書道に優れ、刀剣・書画・骨董を愛好し、勝負事には一切手を出さなかった。昭和10年(1935年)刊行の『岡田吉顕伝』(A5版362頁)には、氏の功績並びに面目が躍如としている。

「中村華精墓碑銘」(福山市赤坂町)を書いた。

また明治19年(1886年)2月15日、福山市丸之内1丁目(赤門の内側)にある「捨生取義の碑」を揮毫した。

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
00063	岡田吉顕 書	和歌「雲のうへに」	—	—

00064	岡田吉顕 書	和歌「御国人」	—	—
03912	岡田純次郎 著	『岡田吉顕之傳』	岡田純次郎	昭和10年

出典1:『福山の古写真集』、福山城博物館友の会編刊、2000年10月1日

出典2:『備後先覚者名鑑(郷土を創った人々)』、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和35年6月

出典3:『誠之館記念館所蔵品図録』、69頁、福山誠之館同窓会編刊、平成5年5月23日

出典4:『福山いしぶみ散歩』、98頁、「中村華精」、佐野恒男著、福山文化財協会刊、1993年5月12日

出典5:『福山いしぶみ散歩』、137頁、「捨生取義の碑」、佐野恒男著、福山文化財協会刊、1993年5月12日

関連情報1:『誠之館百三十年史(上巻)』、52・177・178・190・192・213・226・242・321・323・347・422・443・447・449・460・461・462・463・466・467・468・469・470・473・476・477・480・490・554・557・581・1009 頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

2005年3月25日更新:本文・所蔵品・関連情報・出典●2006年2月27日更新:レイアウト●2006年6月21日更新:タイトル・所蔵品●2007年11月28日更新:経歴・本文●2008年2月5日更新:経歴・本文●2008年8月19日更新:本文●2009年7月23日更新:経歴・誠之館所蔵品●2012年1月10日更新:経歴・本文●2012年2月15日更新:本文・出典●2012年2月15日更新:本文・出典●